

第1回群馬県世界遺産専門委員会 議事録（概要）

日 時：平成27年2月10日（火）13：30～

場 所：群馬県庁舎29階 第2特別会議室

1. 開会
2. 挨拶 笠原部長
3. 委嘱状交付
4. 委員長選出

委員の互選により、委員長・副委員長を選出した。

委員長 ^{かりや} 荻谷 ^{ゆうが} 勇雅 日本イコモス副委員長

副委員長 ^{おかだ} 岡田 ^{やすよし} 保良 国士舘大学（イラク古代文化研究所）教授

5. 議事

（1）報告事項

- ①群馬県世界遺産専門委員会について
- ②世界遺産登録の経緯と現状について

（2）協議事項

①包括的保存管理計画概要版の作成について

■委員からの主な意見

- ・世界遺産委員会での評価内容（報道発表時点での仮訳）に誤解を招く表現があり、翻訳の再確認が必要。
- ・一般の人には、内容が専門的で分かりづらい。
- ・概要版は、内容を良く再検討の上、作成した方が良いが、それとは別に、対象者別に一目で分かるような、説明資料を作成した方が良い。

②資産及び周辺における保存管理・整備活用の課題について

■委員からの主な意見

- ・何が世界遺産としての価値なのか、もう一回原点を問い直す意味でも、継続的に調査研究を行った方がよい。
- ・来訪者数はいずれ落ち着くと思われる。現状の来訪者数が多い時の対応と今後の安定期の対応での場合分けが必要である。
- ・太陽光発電施設は現状では許可できてしまうため、制度づくりの検討も必要。
- ・街並み景観については、最初に整備イメージを持っていないと、誘導方向や落ち着き所が定まらない。
- ・時間をかけてまちづくりのビジョンを持つ事は大切であるが、建物の色や壁の文字など、景観上困ったものが出来ている部分は、早急な対応をした方がよい。
- ・事業者や来訪者を含めた、市民すべてのマナーを向上させる工夫が必要である。
- ・客や店舗のマナーの悪さが資産の価値を下げる場合もある。こういった観光のスタイル・イメージを持つかが大切である。
- ・世界遺産が環境問題の一つであり、歴史的環境の重要性を住民の方に分かってもらうための解説が必要。歴史的環境問題として理解されないとルールを守れない。
- ・4資産を1日で回ることを勧めるのは、あまり良くない。絹関連の他の施設の連携や、見所の季節の紹介などで、滞在時間を伸ばして1泊してもらうことを、県として打ち出していくことで観光振興に結びつく。